

口腔ケアがなぜ大事か イメージでできるようになろう チャレンジしたい 口腔ケアアンバサダー制度



日本口腔ケア学会が2021年4月から「口腔ケアアンバサダー制度」を創設したのをご存じですか？ ケアマネジャーには、利用者の口腔の疾患にいち早く気づき、専門機関につなぐことが求められます。本稿ではケアマネジャーが注意しておくべき口腔ケアの知識と「口腔ケアアンバサダー制度」について学びます。

はじめに

現在私は、医師・歯科医師として、総合診療・高齢者医療に携わっています。特に、人が生きる根幹でもある「食べる」ことに注目して、「食べられない状態が続くこと」による苦痛への対応を行うこと中心に、研究・教育・臨床を行っています。

このような背景を踏まえ、今回、コロナ禍の今だからこそ心がけたい高齢者の口腔ケアについてお話しし、2021年4月に創設された「口腔ケアアンバサダー制度」をご紹介します。

1. 今後、ケアマネジャーに求められる口腔ケアの視点

1) 世界最先端！日本の高齢者口腔ケア

世界でも類を見ない超高齢社会を迎えた本邦では、高齢者の口腔ケアにおいても世界最先端の経験をしています。特にセルフケアのできなくなった方への口腔ケアに関する知識・技術は否応なしに、進歩しつつあります。実際すでに日本を含む東アジアは世界最大の口腔ケア市場となっており、今後本邦を筆頭に、ますますの発展が予想されて

います。

そのような中で重要になってくるのが、口腔ケア提供体制が、各地域でより高いレベルに達しているかの確認です。具体的に、さまざまなケアには、第1段階として、専門職が行うプロフェッショナルケアがあり、第2段階として、多職種を含めたチームで行うマネジメントケアがあります。そして目指すべきは、第3段階の、セルフケアに加え、介助による正しいケアの知識・技術が、体系的、計画的に導入された地域によるシステムティックケアです(図1)¹⁾。皆さんも、現在働かれている地域がどの段階に達しているかを把握し、第3段階のケアを目指していただければと思います。

2) プラーク(歯垢)は糞便の10倍の菌量

そのためには、皆さんの役割が大きいです。ケアマネジメントでは言葉のごとく、「ケア」を「マネジメント」する必要があります。このマネジメントのためには、ケアの種類とそのケアの重要性を知っておく必要があります。そして、それをうまく患者・家族や多職種に伝えることができ、ケアプラン作成に反映させ、ケアの向上ができることが、プロとしての



執筆 ▶
よね なが かず みち
米永一理

● 東京大学大学院医学系研究科イートロス医学講座
十和田市立中央病院総合内科 博士(医学)
日本口腔ケア学会口腔ケアアンバサダー委員会委員長